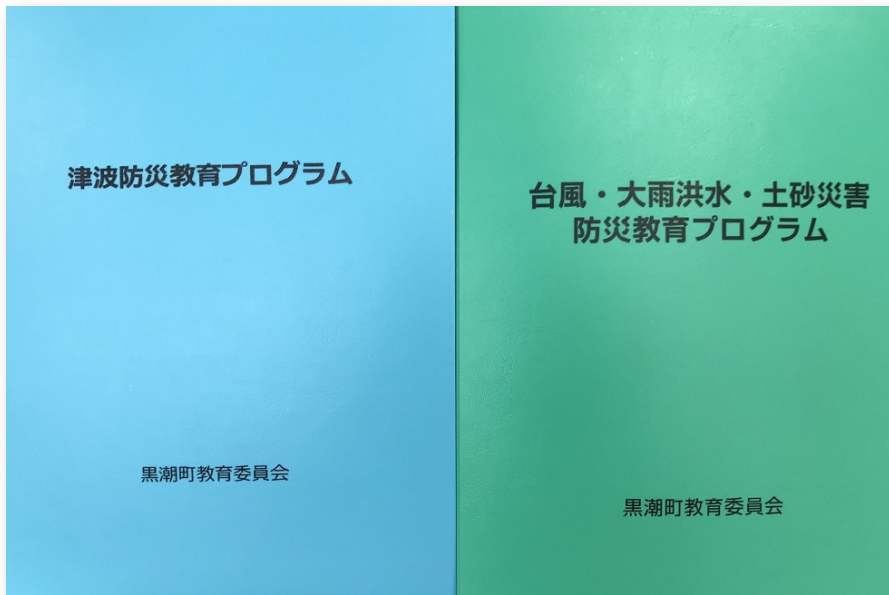


黒潮町の取組から見た防災教育について

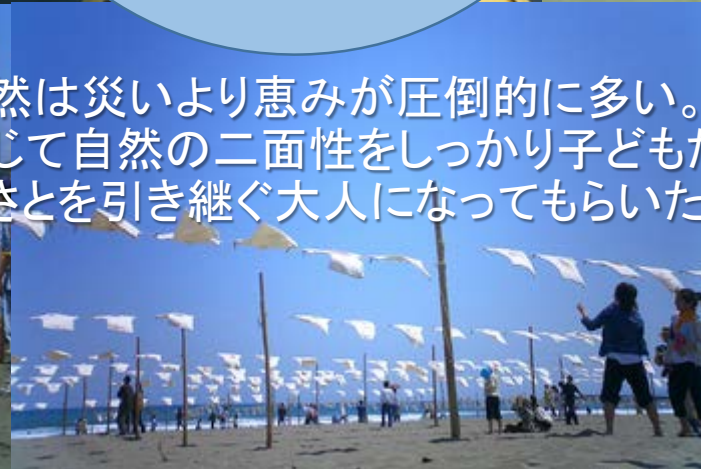


黒潮町の防災教育の理念



「命の教育」を土台に据え、知識としての災害メカニズムや地域の災害の危険性を教えるだけでなく、また逃げることを目的とした脅しの防災教育ではなく、自然には恵みと災いの二面性があることをしっかり理解させ、郷土愛を育みつつ自然災害から自分の命、他者の命を守る生きる力を身につけさせる

自然の二面性



自然は災いより恵みが圧倒的に多い。
防災教育を通じて自然の二面性をしっかり子どもたちに教え、
ふるさとを引き継ぐ大人になってもらいたい

子どもの学びや行動が、 地域の大人への大きな啓発や避難行動につながる



要配慮者宅訪問ヒアリング

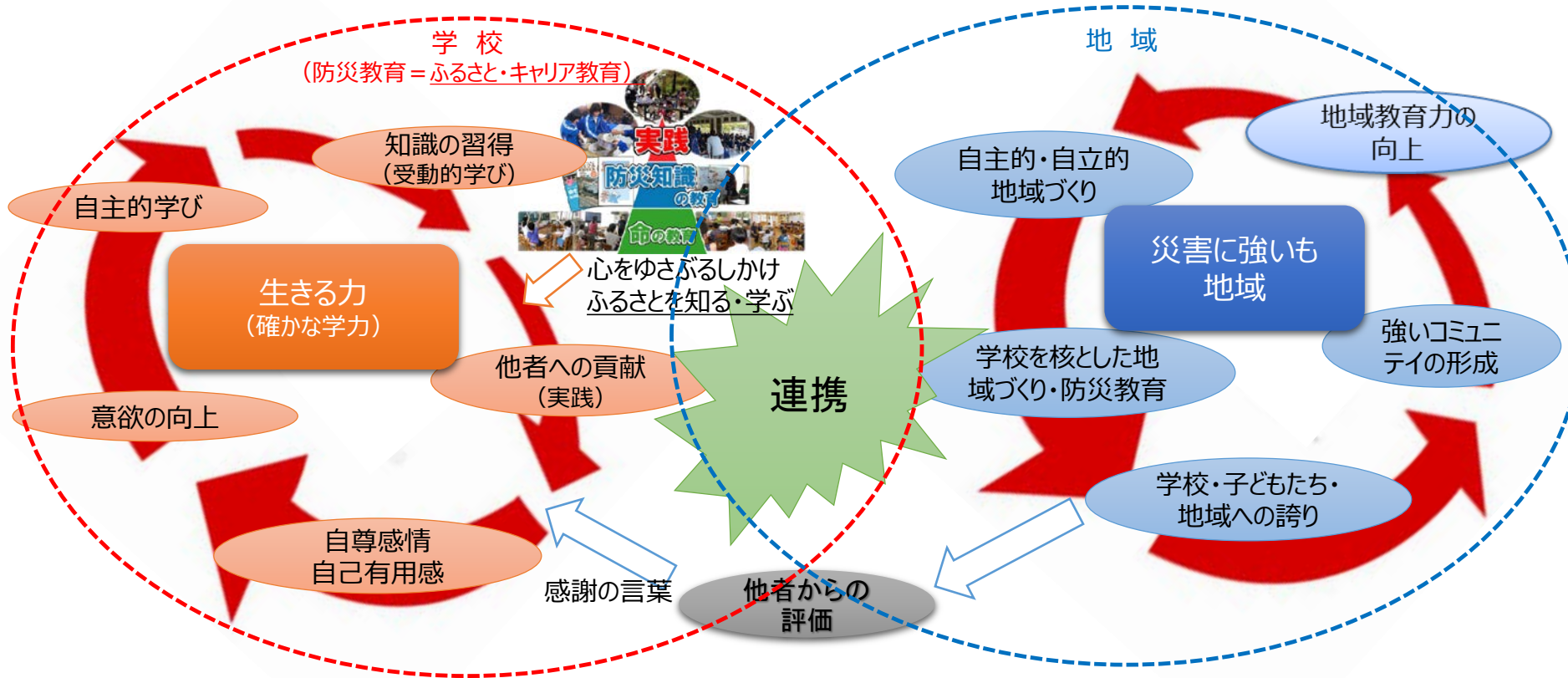


総合防災訓練時のサポート



役所の100回の防災講演会よりも、子どもたちの学びの中から出た、「避難してください」と、1回呼びかける方が、効果が大

「黒潮町の防災教育・ふるさと・キャリア教育」の考え方



児童生徒の心を揺さぶる命の教育、更に他者への貢献の実践が、子どもたちの地域からの評価になり、地域住民の防災行動の変容を起こす。

その結果、子どもたちに自己肯定感や自己有用感が醸成をされ、子どもたちの意欲が更に向上し、自主的な学びにつながっていく。

このサイクルが回ることで、子どもたちの生きる力、確かな学力が身につく

防災教育を通じて育成される非認知能力が、 認知能力の向上に影響する

認知能力ーテストの点数や偏差値など
数値化できる能力

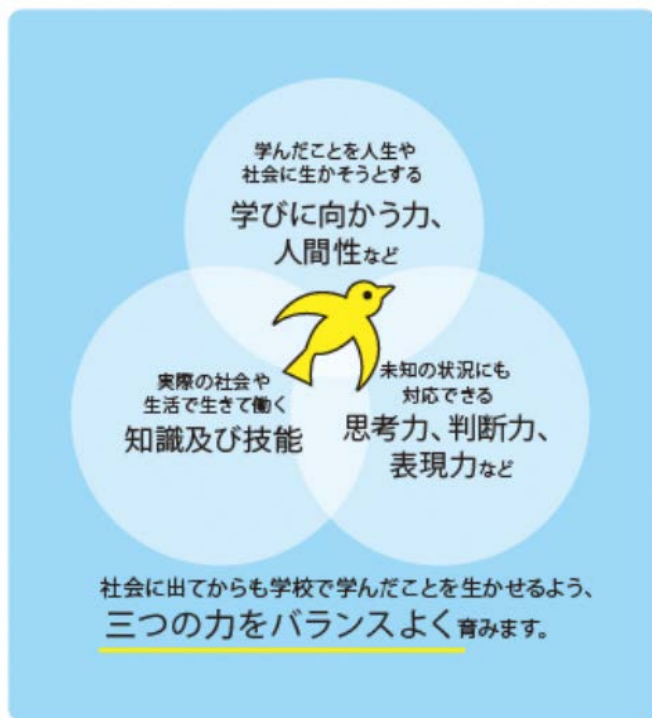
非認知能力ーやり抜く力、回復力、リーダーシップ、主体性、社会性、共感力、想像力、そして自己肯定感や他者への配慮、論理的な思考力など、人間力、生きる力。

認知能力は8歳までにかかなり開発されるが、非認知能力は、後年(10代後半)まで、鍛えることができる



非認知能力が、賃金や雇用といった経済的な成果に大きな影響を及ぼす

防災教育には探究的な授業・学びを進めやすい要素が、多く含まれている



育みたい3つの資質・能力



主体的対話的で深い学び

課題

○学校と地域が協働連携することは重要で必須要素だが、その連携・協働はたやすく構築できない

→学校と地域を結ぶ中間組織

○年間の限られた授業時数の中で、防災教育の時間をどのように確保するか

→防災教育と他教科と横断させた、クロスカリキュラム

○教員の異動にかかわらず防災教育を継続させる

→防災教育が町や学校の文化となる

まとめ

1. 一生涯つかえる「災害から生き抜く力」を育む
2. 自然の「恵み」と「災い」の二面性をとらえる
3. 命に関わることを捉えさせて、主体性(非認知能力)を身につける
4. 子どもの学びが地域の学びと行動につながる
5. 災害に強い地域文化をつくる

砂浜美術館

私たちの町には美術館がありません
美しい砂浜が美術館です